

これまでの支援に**感謝**

多くの人の復興への**想**いを紡ぎ

絆で持続可能な地域社会の実現へ

大切なのは**福島**の**今**を知ること

あぶくま信用金庫は、

全国の信用金庫とともに

持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。

特典情報

信用金庫ご紹介の団体様限定の特典プランもございます。
内容につきましては、お近くの信用金庫にご相談のうえ、
お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先

あぶくま信用金庫 総合企画部
TEL.0244-23-5132
E-mail s1188000@facetoface.ne.jp

本冊子は、相双地域12市町村(南相馬市、相馬市、新地町、飯館村、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町、川内村、葛尾村)および掲載の団体・企業に加え、福島県、公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構、公益社団法人福島相双復興推進機構、公益財団法人福島県観光物産交流協会、信金中央金庫のご協力により作成しました。

本冊子内容に関するご留意事項

- ・本冊子掲載データは、2021年12月時点のものであり、内容は予告なく変更される場合もありますので事前にご確認ください。
- ・本モデルコースは参考例であるため、実際の旅行企画の際には、旅行者とよく相談のうえ、ご判断ください。
- ・当該判断に基づいて、とられた行為等によって発生したいかなるトラブルや損害などについては、補償いたしかねますので予めご了承願います。
- ・掲載の記事・写真・図版・イラスト等の無断転載を禁じます。

企画・編集／あぶくま信用金庫、東通インテグレート(株) 取材協力／(株)太宰商店、大友ゆり子
※本冊子は、令和元年度「地域経済産業活性化対策費補助金(地域の伝統 魅力等発信支援事業)」を活用し作成したものを、改訂したものです。

福島県相双地域 魅力ガイドブック

今まで知らなかった魅力を
体験しよう

ふくしま
福相双



発刊にあたって



東日本大震災と原子力災害の発災から10年の節目となった2021年。3月に聖火リレーが福島の復興のシンボル「Jヴィレッジ」からスタートし、10月に国際競技会「ワールドロボットサミット(WRS)2020」福島大会が「福島ロボットテストフィールド」で開催されました。

また、7月に「とみおか・アーカイブミュージアム」が開館、10月に「浪江町立請戸小学校」が福島県内初の震災遺構として一般公開されるなど、震災の教訓を伝承するアーカイブ施設の整備が進み、被災地の現状を学ぶホープツーリズム※の参加者も増加しております。

一方、廃炉や汚染水・処理水対策、根強く残る風評被害、時間が経つにつれて進む記憶の風化など課題は山積しております。さらに、津波と原発事故という複合災害により、2022年から住民の帰還が開始できる地域、避難指示解除から5年以上経過しても居住率が低迷している地域、新たな産業基盤の構築が進んでいる地域など、復旧・復興の進捗は地域ごとに異なります。

福島県相双地域魅力ガイドブック「福相双」は、2020年2月に初版を発刊しましたが、その直後から続く新型コロナの影響により、安心して当地域で交流し、復興が道半ばの「福島の今」を幅広く知っていただく機会の確保が厳しくなりました。しかし、こうした状況でも、震災の教訓を忘れさせないための情報発信を続けていくことが私たちの使命として、地域の関係機関の皆様のご協力のもと、本ガイドブックの改訂を行いました。

拙書ではございますが、本ガイドブックを通じて「福島の今」を知っていただき、震災の教訓を後世に伝承していくとともに、コロナ収束後は当地域にお越しいただき、復興を成し遂げるその日まで一つ一つを実現していく福島の力強さを感じていただければ幸甚に存じます。

末筆となりますが、一日も早いコロナ収束と皆様のご健康とご発展を心よりお祈り申し上げます。

2022年2月
あぶくま信用金庫 理事長 太田 福裕

本ガイドブックを活用した当金庫の交流人口拡大ならびに風化防止・風評被害払拭に向けた取り組みは、第24回信用金庫社会貢献賞FacetoFace賞・第6回ふくしま産業賞特別賞を受賞させていただきました。改めて、厚く御礼申し上げます。

※被災地を見るだけでなく、復興に携わる人々との対話を通じて旅行者に自ら考え学んでもらうツアーの形。詳しくは、福島県ホープツーリズムのHP (<http://www.hopetourism.jp>) をご参照ください。



相双地域へのアクセス

相双地域は、福島県の東部、太平洋の沿岸部に位置しています。津波災害と原子力事故を乗り越え、地域の復興再生に向けて新たな人づくり・地域づくりを進めています。



主要都市からのアクセス

東京から	名古屋から
新幹線ご利用の場合 東京駅 — 約1時間35分 — 仙台駅 東京駅 — 約1時間35分 — 福島駅	飛行機ご利用の場合 中部国際空港 — 約1時間5分 — 仙台空港
常磐線特急ご利用の場合 上野駅 — 約2時間15分 — いわき駅	飛行機ご利用の場合 伊丹空港 — 約1時間10分 — 仙台空港 伊丹空港 — 約1時間5分 — 福島空港 <small>※ 福島空港から福島市までバスで1時間・南相馬市までバスで2時間</small>
バスご利用の場合(常磐道) 三郷IC — 約2時間 — いわき中央IC	福岡から 飛行機ご利用の場合 福岡空港 — 約1時間40分 — 仙台空港

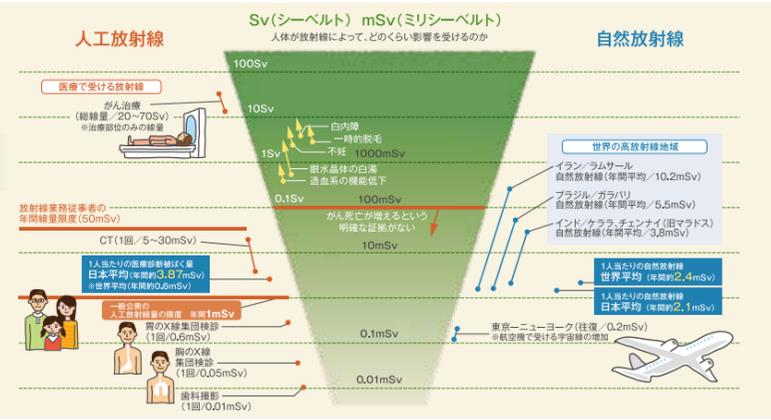
※所要時間は目安時間です。詳しくは各交通機関にてご確認ください。

日常生活における放射線の影響について

日常生活での放射線被ばく

【注意】 1) 数値は有効数字などを考慮した概数
2) 目盛(点線)は対数表示になっており、目盛がひとつ上がる度に10倍となる

参考：(独)放射線医学総合研究所、(公)原子力安全研究協会「新版 生活環境放射線(国民線量の算定)」(2011年)などにより作成



市町村紹介

南相馬市



震災と原発事故から11年。これまで蒔き続けた希望の種が確実に芽吹き、花開いています。

津波で甚大な被害を受けた沿岸部には、「福島県ポットテストフィールド」が整備され、多くの企業や研究者によって最先端の実証実験が行われています。かつて大人でさえ立ち入ることが許されなかった旧避難指示区域では、屋内型子どもの遊び場「NIKOパーク」がオープンし、子どもたちのたくさんの笑顔があふれています。

南相馬市では、「100年のまちづくり～家族や友人とともに暮らし続けるために～」を政策目標に掲げ、子育て環境の充実や医療提供体制の強化に取り組んで参りました。これらが実を結び、宝島社が発表した「2022年版 住みたい田舎ベストランキング」において東北エリアで第3位、県内では第1位にランクインしました。これからも市民はもとより移住者にとっても魅力あるまちづくりに挑戦して参ります。

当地方に連続と受け継がれる伝統の祭「相馬野馬追」は、新型コロナの影響により2年連続で大幅な規模縮小を余儀なくされました。今年こそは騎馬武者たちが繰り広げる勇壮華麗な戦国絵巻、さらには震災から復興へと歩む姿を多くの皆様にご覧いただきたいと考えております。力強く前進する南相馬市へぜひお出でください。

南相馬市長 門馬 和夫



相馬市



相馬市は、東日本大震災により甚大な被害を受けましたが、日本中ではもとより、世界中の皆さまのご支援を頂きながら、市民とともに一歩ずつ復興に向けて歩んでまいりました。ここに改めて、感謝申し上げます。

震災から10年以上経過し、被災した沿岸地区には、子ども達が遊び、人が集い交流できる憩いの場をコンセプトとして、十種類の屋外遊具を備えた遊具広場、子どもの屋内遊び場等を備えた尾浜交流館、サッカーコート一面が入る広さの芝生広場等を備えた「尾浜子ども公園」を整備しました。また、地域の産業振興、風評払拭、地産地消の推進等を目的に、水産物・農産物・地域商品を販売する市場と相馬沖で獲れた魚介類をふんだんに使用したメニューを提供する食堂を有する「浜の駅松川浦」がオープンしています。福島県内をはじめ、2021年4月に開通した東北中央自動車道「相馬福島道路」を利用して県外からも多くの皆さまにお越しいただいております。

今後、人の流れを市内全体に広げ、さらに農水産物の風評被害払拭できるような復興事業で整備したこれらの施設を十分に活用し、交流人口の拡大や地方創生につながる魅力ある地域づくりを進めてまいります。

相馬市長 立谷 秀清



新地町



東日本大震災と原発事故から10年が経過した令和3年、新地町は「町制施行50周年」を迎えました。令和3年からスタートした「第6次新地町総合計画」では、「安心して暮らせる活力あるまち しんち」を町の目指す将来像に掲げ、まちづくりに取り組んでおります。東日本大震災からの復興に向け、「釣師防災緑地公園」や「海釣り公園」などに取り組み、

幅広い世代に楽しんでもいただける施設を整備しました。また、四季を通して里山歩きを楽しむことができる「鹿狼山」は多くの方に親しまれています。皆様のお越しをお待ちしております。

新地町長 大堀 武

釣師防災緑地公園



減災・交流促進・震災アーカイブ機能をテーマに、子どもから大人まで楽しんでもいただけます。周辺には海・温泉があり、多くの遊具と自然の中で一日中楽しめます。パンptrackコース・BBQ場・キャンプサイトも併設しています。

海釣り公園



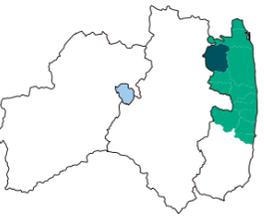
釣り好きから家族連れまで、安全かつ気軽に釣りが楽しめる釣り公園。震災前より釣りデッキを延ばし、入場定員数も増やしました。相馬共同火力発電(株)新地発電所の温排水により水温が高く、季節によっていろいろな魚が集まります。

鹿狼山



鹿狼山は福島県と宮城県の間境に位置し、標高430mで、頂上からの眺めが見事で、四季を通じて登山の楽しめる眺望の山です。

飯舘村



東日本大震災から十年の月日を経て、飯舘村は「明日が待ち遠しくなるようなワクワクする楽しいふるさと」に向かっての新たな一歩を踏み出しています。「ふるさと」を愛し、楽しみ、その喜びを共にする方を、みな「ふるさとの担い手」と位置付けて、誰もがともに手を携える、魅力とにぎわいあふれる飯舘村を目指し、日々邁進しております。

ふるさとの担い手には、村民であるか否か、村に住んでいるか否か、これまでに関わりがあるか否かはもちろん、年代や職業などの垣根はありません。一年に一度でも、数年に一度でも、あるいは毎月、毎週、毎日でも、村に想いを馳せ、村「を」楽しむ、村「で」楽しむ一つ一つの営みが、村を元気にします。

飯舘村には、村の特産品づくりに動も農家さん、幻の「いいたて牛」の新生に向かう農家さんがいます。

また、旧ホームセンター跡地・建物を利用して交流事業に取り組む方、地元の花を活用したボタニカルキャンドル工房を立ち上げた方、「モノからはじまる」をキーワードにクラフト作家にこだわったマルシェを開催する方、YouTuberとして村内での活動を発信する方、村産の野菜にこだわった古民家レストランをオープンさせる方など、意欲的な若者・移住者の活動が展開されています。

飯舘村は、いわば「真っ白なキャンパス」です。小さな自治体であるからこそ、意欲ある方、意欲高い事業者、お一人お一人の想いに寄り添って、一緒に汗をかき、個々にオンデマンド型の事業を展開していきます。

この飯舘村に、みなさまの「彩り」を加えていただければ幸いです。

飯舘村長 杉岡 誠



市町村紹介

浪江町

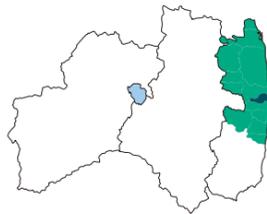


浪江町に対する皆さまからの温かいご支援に心より感謝を申し上げます。
浪江町は、原発事故による約6年間に及ぶ全町避難を経て、町内の一部で避難指示が解除されてから本格的な復興が始まりました。保育園・小中学校の開校、漁港、道の駅の完成、飲食店の再開等、町内は少しずつ賑わいを取り戻しています。
町の名産品には、300年以上の歴史を持つ「大堀相馬焼」や、B級グルメ「なみえ焼きそば」等がありますが、震災後、新たな特産品として「トルコギキョウ」が市場で最高評価を受けるなど、花卉栽培が盛んになってまいりました。2021年10月には「震災遺構浪江町立戸小学校」が公開となり、津波と原発事故という二つの大災害に見舞われた唯一の施設として、震災の記録と記憶を伝えていきます。また、町は再生可能エネルギー地産地消の町づくりを行っており、2019年3月ゼロカーボンシティを宣言しました。特に、水素の分野では水素社会実現に向けた最先端の取組みを行っています。
このように浪江町では、水素の利活用などの最先端の取組みや震災や原発事故等の教育的視察が可能です。また、福島応援ポモモン「ラッキー公園inなみえまち」、美味しい魚介や地酒など宿泊施設や飲食店も充実していますので、子供からお年寄りまでゆっくりと楽しむことができます。
是非、多くの皆さまのお越しをお待ちしています。

浪江町長 吉田 数博



双葉町



2011年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故から11年が過ぎようとしておりますが、双葉町は被災12市町村の中で唯一、いまだに全町避難が継続している町です。
町域の約96パーセントが帰還困難区域に指定され手つかずの状態が続いておりましたが、2017年9月に特定復興再生計画が内閣総理大臣の認定を受け、この計画に基づき特定復興再生拠点区域内の除染・建物解体、インフラ復旧などの環境整備に取り組み、2020年3月4日に同拠点区域内の立入り制限が解除になりました。
また、2020年の3月には避難指示解除準備区域とJR双葉駅周辺の一部区域の避難指示が解除され、常磐自動車道常磐双葉インターチェンジ、橋上駅化したJR双葉駅の供用を開始、町役場コミュニティセンター連絡所の開所により約9年ぶりに町内で行政サービスの一部を再開しました。
2020年の秋には中野地区復興産業拠点で東日本大震災・原子力災害伝承館と来訪者や就業者をサポートする双葉町産業交流センターがオープン、同拠点内では企業が順次操業を開始しています。
現在町では、2022年6月以降の特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除を目指して、1月20日から準備宿泊を開始し、JR双葉駅西側地区に秋から入居開始予定の公営住宅の整備などを進めています。町民の皆さんが戻ってこれるような、また戻ってきたいと思えるようなまちづくりを実現することが、我々の責任においてやらなくてはならないことだと思っています。

双葉町長 伊澤 史朗



大熊町



大熊町は2019年4月に故郷の一部を取り戻し、おおくま再興へ歩みを進めております。
役場本庁舎も所在する大川原復興拠点においては、2021年に交流ゾーンとして商業施設「おおくまーと」、交流施設「link大熊」、宿泊温浴施設「ほっと大熊」の3施設が整備され本格的に運用されております。これにより震災以降、町内で実施することが難しかったイベント等も開催可能となり、帰還された方はもちろん町を訪れる多くの方々との交流が生み出されることを期待しております。
さらに、2022年の春にはかつて町の中心部であった下野上地区を含む特定復興再生拠点区域の避難指示解除が予定されております。解除後はエリア内に公益・業務施設用地、住宅用地、産業用地等の造成を行い、新たな産業と生活の場を作り、さらなる賑わいを創出します。
そのほか、大熊産いちごやその加工品、また大熊産のお米を使った日本酒「帰忘郷」など特産品も徐々に増えております。
今後も全国各地の皆様から頂きましたご支援に対する感謝の気持ちを忘れず、全力で復興業務に取り組みまいります。近くにお越しの際にはぜひ大熊町へお立ち寄りください。

大熊町長 吉田 淳



富岡町



全国の皆様からいただいたご支援に対し心から感謝を申し上げます。
富岡町は、夜の森地区にある約420本から成る2.2キロの桜並木が有名ですが、1.9キロは帰還困難区域のため、立ち入りができませんでした。2019年4月、バスの中からではありますが、震災後初めて帰還困難区域の満開の桜を見ていただくことができました。2022年1月に夜の森地区周辺の立入規制が緩和され、現在は、桜並木の全てをご覧いただけるようになっています。
また、町内の大部分で避難指示が解除された2017年春、国道6号沿いに全面開業した公設民営施設「さくらモールとみおか」が、2019年の7月で利用者総数が200万人を突破し、東日本大震災以降中断していた「麓山の火祭り」(福島県指定重要無形民俗文化財)が2018年8月に8年ぶりに復活するなど、一歩ずつではありますが着実に復興の歩みが続いています。

富岡町長 山本 育男



市町村紹介

檜葉町



檜葉町では、第6次檜葉町勢振興計画を始動させ、「魅力ある教育」、「農業の再生」、「健康増進とスポーツの振興」などを柱としながら「新生ならば」の創造に取り組んでおります。昨年は、町制施行65周年の節目の年を迎え、当町出身者で食文化史研究者として著名な永山久夫先生を名誉町民に推戴し、あわせて日本サッカー協会の田嶋会長をはじめとする12名の方を、檜葉アンバサダーに任命させていただきました。

復興の種がようやく芽吹きはじめ、「笑ふるタウンならば」や「ならばスカイアリーナ」で、子どもからお年寄り、町内外から多くの訪問者が集まり賑わう光景が、当たり前の日常として定着していますが、町内外の方々のチカラを結集し、さらなる高みを目指したいと考えております。

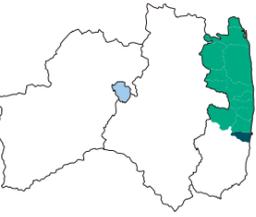
そして、今年の大きなテーマのひとつは「人」と考えています。町民の居住率は約6割ですが、さらにその先を見据え、人々の交流から生まれる活力・生きがい・つながりなどをベースに、もっともっと地域の魅力を高めていきたいと思っております。また、令和4年度は、南北2校あった小学校を統合し、新生「檜葉小学校」が開校します。次世代を担う子どもたちをサポートする体制を構築するなど、教育と子育てしやすい環境整備にも全力で取り組みます。

今なお新型コロナウイルス感染症によって、先が見えない状況にありますが、今年も、檜葉町のファンを増やし、移住・定住を促進する施策をどんどん打ち出しております。檜葉町の新たな挑戦にご期待いただくとともに、変わらぬご支援をお願いいたします。

檜葉町長 松本 幸英



広野町



広野町は、未曾有の東日本大震災・原子力災害による全町避難という極めて過酷な状況から、町の復旧・復興、そして「美しいふるさと」を取り戻す強い決意のもと、町民9割が帰還し、新たな時代の安心・安全な防災に強い「共生のまちづくり」を着実に進めてきました。

震災後、認定こども園や小学校、中学校、ふたば未来学園など現在約1000人の園児・児童・生徒が就学する『教育の丘』が形成され、多くの若者が集い、賑わいが生まれております。

文化事業として、童謡「とんぼのめがね」、唱歌「汽車」が生まれたゆかりの地であることから、平成6年度より「ひろの童謡まつり」を開催し、童謡作詞コンクールを行うなど童謡の継承と新たな童謡を発信しております。

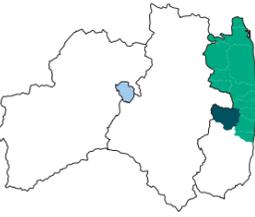
この取組が評価され、平成29年には、童謡文化賞を受賞しました。平成30年には、童謡「赤とんぼ」のふるさとである兵庫県たつの市と「童謡の里づくりのまち」交流協定を締結し、童謡を継承し、共に全国に向けて新しい童謡の魅力を発信しております。

観光の面では、復興のシンボルであるJヴィレッジはじめ、ニッ沼総合公園が有する観光、体験・交流などの優位性を発揮させ、国産バナナ「綺麗」をはじめ広野コーヒーにもチャレンジし、広野町の魅力度を高める取り組みを引き続き行ってまいります。

広野町長 遠藤 智



川内村



川内村は福島県の浜通りに位置し、阿武隈高地の最高峰の大滝根山の東山麓にあり、美しい自然、豊かな森林資源に恵まれ、緑と清流が自慢の村です。

村には、釣りや自然を満喫できる「いわなの郷」、温泉施設「かわうちの湯」、サラサドウダンの名勝「高塚高原」、モリアオガエルの産卵地として国の天然記念物の「平伏沼」、かえる詩人として

名高い故草野心平氏別荘「天山文庫」等の名所、景勝地があります。最近ではワイナリーができた地で収穫したブドウからなるワイン造りを進めています。

6月のドウダン祭り、夏には天山祭りや盆踊りと川内村BON DANCE、秋のかわうち祭り-秋の陣-には多くの方々が参加、賑わいを見せています。さらに村内の自然を満喫しながら走るマラソン大会も大変人気があります。

多くの皆様に当地にお越しいただき、川内の今を見て、食べて、感じていただければと思っております。

川内村村長 遠藤 雄幸



天山文庫



平伏沼



いわなの郷

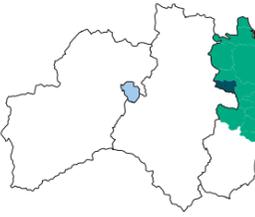


かわうちの湯



高塚高原

葛尾村



葛尾村は、一部避難指示解除から約6年が経過しました。特定復興再生拠点区域となっている野行地区は、宅地・農地・道路の除染と、家屋解体が完了し、春頃の避難指示解除を目指して2021年(令和3年)11月に準備宿泊を開始しました。現在は、家の門口舗装や井戸の掘削を行い、生活環境の再建と営農再開に向けた取り組みが始まっています。

2021年(令和3年)は、新型コロナウイルス感染症の影響により、秋の実りを皆様にお届けする、「かつらお感謝祭」の中止など、イベント事業に多大な影響がございましたが、感染防止対策を講じて自転車ロードレース「ツール・ド・かつらお」を開催することができました。本村ならではの標高差400mのアップダウンの激しいコースで、国内でも屈指の難易度を誇っています。また、メインレースの他に、女子部門・ジュニア部門を設けており、プロチームから初心者まで、毎年幅広く参加いただいています。目の前を自転車が高速で走り抜ける様子を体感でき、また、メイン会場となる復興交流館あぜりあでは、物販も行っていますので、家族で楽しむことができます。

さて、本村は2023年(令和5年)に、村政100周年を迎えます。皆様のご支援お力添えに感謝しながら、今後も村の再生、持続可能な村づくりに取り組んでいきます。是非、葛尾村へ足を運んでいただき、四季の美しい「ふるさとかつらお」を感じてください。

葛尾村村長 篠木 弘



蘇る戦国絵巻 相馬野馬追

一千有余年の歴史を経て
今なおいきづく伝統の祭り

野馬追の由来

相馬家の祖といわれている「平小次郎将門(たいらのこじろうまさかど)」は今をさかのぼること一千有余年の昔、新しい軍事力として馬の活用を考え下総国葛飾郡小金ヶ原(現在の千葉県北西部)の牧に野生の馬を放牧し、関八州(北関東八ヶ国)の兵を集め、野馬を敵兵に見立てて追い、捕らえる軍事訓練として、また、捕らえた馬を神前に奉じ妙見の祭礼として行ったのに始まったと言われています。

その後、元亨3年(1323年)、相馬氏は奥州、行方郡(現在の南相馬市)に移り住んでからも、代々の相馬領主が、明治維新までこの行事を連綿と続けたのであります。

相馬家は鎌倉時代より幕末までお国替えのなかった希少な藩であり、現在でも総大将は相馬家の子孫が務めています。

福島県南相馬市を中心に相馬、双葉郡に至る、旧相馬中村藩領(二市四町一村)挙げて開催される国の重要無形民俗文化財「相馬野馬追」は、戦国時代のその昔から一千有余年の歴史を誇る日本を代表する伝統文化行事であります。

7月最終土・日・月の3日間、400余騎の甲冑騎馬武者が出場し勇壮華麗にして豪華絢爛に繰り広げられる戦国絵巻。

「相馬野馬追」は「世界一の馬の祭典」ともいわれています。

■ 1日目

出陣式

出陣は相馬中村神社・相馬太田神社・相馬小高神社の各妙見神社で行われます。それぞれの神社で参拝と祝杯が行われ、やがて出陣準備が整うと大将が出陣を命じます。軍者の振旗を合図に螺役が高らかに螺を吹き、出陣します。

総大将お迎え

北郷陣屋では、副大将を中心に、侍大将、副軍師がそろい、軍者をはじめとする各役付武者や螺役などが整列して総大将をお迎えします。総大将お迎えの儀式は厳粛にとり行われ、総大将訓示の後には、一同が雲雀ヶ原祭場地に向かって進軍します。



■ 2日目

お行列



先祖伝来の甲冑に身を固めた400余騎の騎馬武者が居並ぶ、威風堂々にして豪華絢爛な戦国絵巻は、まさに天下無比の圧巻であり、文化財的逸品が揃う「お行列」は動く文化財展として好事家に野馬追をもう一度見たいと言わせる所以です。

甲冑競馬

陣螺、陣太鼓が鳴り響くと、兜を脱ぎ白鉢巻を締めたる若武者が、大坪流の手綱さばきのもと、先祖伝来の旗指し物をなびかせ、人馬一体となり風を切り疾走する勇壮な甲冑競馬が開始されます。

神旗争奪戦

山頂の本陣から戦闘開始の陣螺が鳴り渡ると、満を持していた騎馬武者たちが、夏草茂る雲雀ヶ原一面に広がる。天中高く打ち上げられた花火が炸裂し、二本の御神旗がゆっくり舞い下りてくると、数百騎の騎馬武者がこの旗を目指しどっと駆け出し、御神旗の下に群がり鞭を振りかざし勇猛果敢に奪い合います。雲雀ヶ原祭場地は、戦場と化し祭りは最高潮に達します。



■ 3日目

野馬懸

野馬懸は昔の名残をとどめている唯一の神事です。騎馬武者数十騎が裸馬を境内に設けた竹矢来に追込み、白鉢巻に白装束をつけた御小人と呼ばれる者たちが、多くの馬の中からおぼし召しにかなう荒駒を素手で捕らえ神前に奉納するという古式にそった行事です。



2011年 忘れてはならない福島の影響



あの時
 自衛隊、警察、消防関係者など現場では多くの方々が決死の覚悟でした。
 計画停電が実施され、一人一人が節電を意識し生活していました。
 人と人との助け合いの素晴らしさがありました。

2020年 福島の希望の光



復興の今を全国・全世界に発信

提供：福島民報社、福島民友新聞社、共同通信社



「はじめよう」から「実現する」へ。福島県の新スローガンです。

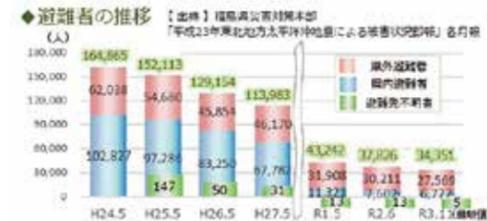
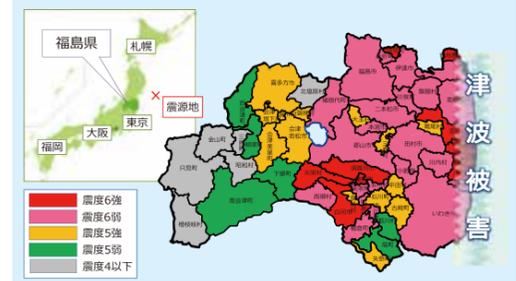
震災から10年を機に、福島県は、「ふくしまからはじめよう。」からのバトンを渡す、新スローガンを策定しました。「はじめよう」から、「かなえる」へ。ひとりひとりの力を重ね、それぞれの思いを繋ぎ、ともに、ひとつずつ、しっかりと、カタチにし続けていこうと。

震災発生～現在～未来～

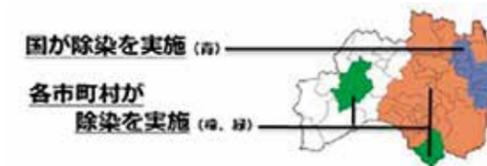
東日本大震災発生 (2011年3月11日14:46)

2011年3月11日に三陸沖を震源として発生した「平成23年東北地方太平洋沖地震」はマグニチュード9.0を記録し、観測史上最大級の地震でした。最大震度7を記録し、激しい揺れとともに、広い範囲で大津波が押し寄せました。

震源地と県内各地の震度



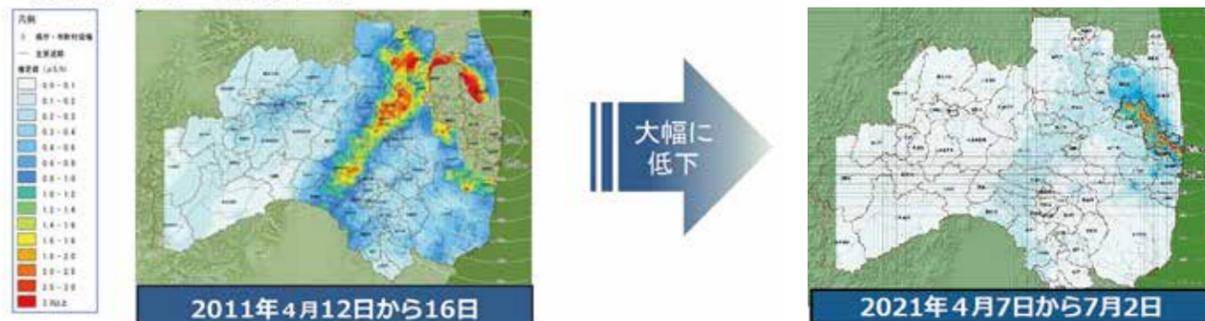
除染実施計画に基づく除き面的除染は、帰還困難区域を2018年3月までに100%完了



環境の回復状況

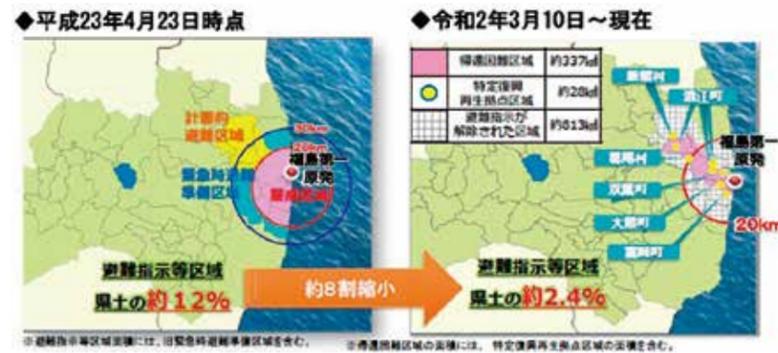
福島県環境放射線モニタリング・メッシュ調査結果等に基づく空間線量率マップ

※国土院「基礎地図情報数値標高モデル」、国土交通省国土政策局「国土数値情報（行政区界、道路）」を使用し作成。



復興の今 (2021年12月時点)

原子力災害に伴う避難指示区域等の状況



避難地域12市町村の居住状況(令和3年11月)

解除時期	区分	市町村	居住率
—	—	広野町	90.2%
平成26年	全域解除	田村市(都路地区)	84.9%
平成27年	全域解除	楢葉町	61.7%
平成28年	一部解除	葛尾村	33.3%
	全域解除	川内村	82.3%
平成29年	一部解除	南相馬市(小高区等)	58.1%
	全域解除	川俣町(山木屋地区)	48.2%
	一部解除	浪江町	10.8%
平成31年	一部解除	飯館村	29.4%
	一部解除	富岡町	14.8%
令和2年	一部解除	双葉町	3.5%

特定復興再生拠点区域外への帰還・居住に向けた避難指示解除に関する基本的方針(令和3年8月31日)

国において、拠点外の住民の帰還意向を個別に把握し、国が帰還に必要な箇所の除染をした上で、2020年代に希望する住民が戻れるよう避難指示解除を進めるとの方針を示した。具体的な取組については、今後、国と市町村が協議を行い、決定される。

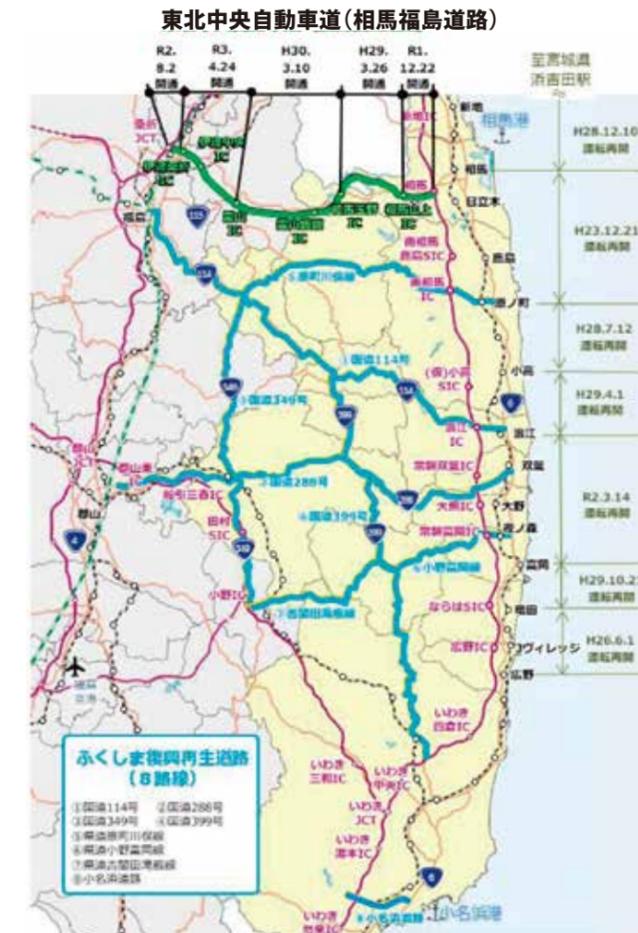
- 〈方針概要〉
- ▶ 拠点区域の避難指示解除後、帰還意向確認等の状況を踏まえて遅滞なく除染を開始。
 - ▶ 放射線量の低減、帰還住民の安全・安心に万全を期するため、除染範囲は十分に地元自治体と協議・検討
 - ▶ 住民意向確認はすぐに意向を表明できない住民にも配慮し、「帰還したい住民」の思いに答えるべく複数回実施
 - ▶ 除染・解体は国の負担で行う
 - ▶ 帰還意向のない土地・家屋の扱いについては地元自治体と協議を重ねつつ、検討を進める

帰還困難区域内の特定復興再生拠点区域※1における準備宿泊※2の開始日・開始目標

葛尾村・令和3年11月30日	大熊町・令和3年12月3日
双葉町・令和4年1月20日	富岡町・令和4年春頃
浪江町・令和4年秋頃	飯館村・未定

※1 将来にわたって居住を制限するとされてきた帰還困難区域内に、避難指示を解除し、居住を可能とする区域
※2 避難指示区域内で禁止されている自宅での宿泊を特定の可能にする制度

交通インフラの復興状況



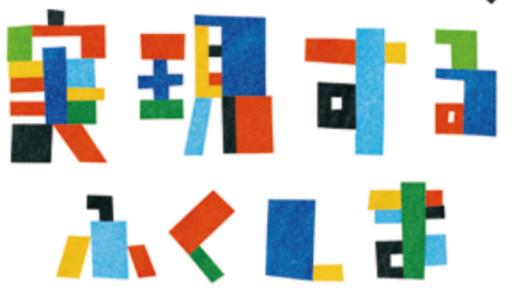
東北中央自動車道(相馬～福島) 令和3年4月24日 全線開通
JR常磐線 令和2年3月14日 全線運転再開

放射線量について



未来へ

平らな道ではありませんでした。真直ぐな道ではありませんでした。
復興は、まだ道半ば。ひとりひとりがそれぞれの日常を丁寧に、歩みながら。
Not a Dream.
希望も、夢も、現実となるその日を作るための入口なのだと思います。
はじめ、から、かなえる、へ。
チャレンジの卵、その殻を破り、生まれるものたち。それぞれの場所、それぞれの思い、それぞれの歩幅で。ともに思い合いながら。



ふくしま復興のあゆみ

福島県では、復興の状況について、データなどによりわかりやすくお伝えする「ふくしま復興のあゆみ」を定期的に公表しています。



福島県ウェブ
ふくしま復興ステーション

東日本大震災・原子力災害10年の記録
<https://fukushima-10years-archives.jp/>



出典「ふくしま復興のあゆみ」

福島ロボットテストフィールド

福島イノベーション・コースト構想に基づき整備された「福島ロボットテストフィールド」は、物流、インフラ点検、大規模災害などに活用が期待される無人航空機、災害対応ロボット、自動運転ロボット、水中探査ロボットといった陸・海・空のフィールドロボットを主対象に、実際の使用環境を拠点内で再現しながら研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができる、世界に類を見ない一大開発実証拠点です。

本拠点は、南相馬市・復興工業団地内の東西約1,000m、南北約500mの敷地内に「無人航空機エリア」、「インフラ点検・災害対応エリア」、「水中・水上ロボットエリア」、「開発基盤エリア」を設けるとともに、浪江町・棚塩産業団地内に長距離飛行試験のための滑走路を整備し、2020年3月に全面開所しました。



施設概要

所在地 / 福島ロボットテストフィールド
 福島県ハイテクプラザ南相馬技術支援センター
 福島県南相馬市原町区萱浜字新沼83番
 南相馬市復興工業団地内
 福島ロボットテストフィールド浪江町滑走路
 福島県双葉郡浪江町大字棚塩字東赤坂89番
 浪江町棚塩産業団地内

電話番号 / 0244-25-2473

見学曜日 / 月曜～金曜（土日祝日・年末年始除く）

見学時間 / 9:30～11:30 13:30～16:00

URL / <https://www.fipo.or.jp/robot/>

E-Mail / robot.info@fipo.or.jp

お問合せ / 福島ロボットテストフィールド 事業部 連携課
 TEL:0244-25-2474



※見学は、予定日の2週間前までに申込みを行ってください。
 ※見学は日程の都合によりご希望に添えない場合がございます。
 ※見学の仮予約は行っていません。必ず申込書を提出してください。

無人航空機エリア

無人航空機向けとしては国内最大となる飛行空域、滑走路、緩衝ネット付飛行場において、基本的な飛行から衝突回避、不時着、落下、長距離飛行など多様な試験ができる環境を提供し、無人航空機の実用化を推進します。



1 南相馬滑走路 2 滑走路附属格納庫 3 ヘリポート



4 浪江滑走路 6 通信塔 7 緩衝ネット付飛行場
 5 滑走路附属格納庫 広域飛行区域



8 風洞棟 9 連続稼働耐久試験棟

水中・水上ロボットエリア

ロボットによる水中のインフラ点検と災害対応の実証試験のために整備される国内唯一の試験場です。ダム、河川、水没市街地、港湾等の水中で発生する状況を再現できます。



1 水没市街地フィールド



2 屋内水槽試験棟

水害で冠水した市街地を再現し、水上・水中ロボットや無人航空機による情報収集、捜索・救助訓練ができます。点検対象や障害物を沈めた試験、有人ヘリやボートによる救助訓練にも使用できます。

ダム・河川・港湾等を再現し、水中・水上ロボットによる点検・調査に関する試験や操縦訓練を行う施設です。大水槽では、老朽化した水中構造物を模したテストピースを備えるほか、点検対象物の設置、水流の発生、暗所の再現が可能です。小水槽では、濁度を調整して、搭載する観測機器の性能を試験できます。

インフラ点検・災害対応エリア

ロボットによるインフラ点検と災害対応の実証試験のために整備される国内唯一の試験場です。トンネル、橋梁、プラント、市街地、道路等の構造物の中で、想定されるほぼ全ての災害環境、老朽化状況を再現できます。2021年10月には、ロボットの国際競技会である「World Robot Summit 福島大会」が開催されました。



1 試験用橋梁 2 試験用トンネル



3 試験用プラント 4 市街地フィールド
 5 瓦礫・土砂崩落フィールド

開発基盤エリア

福島ロボットテストフィールドの本館としての機能を持ち、各試験の準備、加工・計測に加えて、ロボットの性能評価のための風、雨、防水、防塵、霧、水圧、温湿度、振動、電波に対する試験を行うことができます。



1 研究棟
 2 試験準備棟
 3 屋外試験準備場
 4 簡易計測室A
 5 簡易計測室B

棟内に併設する福島県ハイテクプラザ南相馬技術支援センターにより、設備の利用支援やロボット技術等の技術相談、開発支援等を行います。



Jヴィレッジは、福島県浜通りに位置し、東北地方にありながら温暖な気候で冬季も雪の影響を受けずに年間を通してサッカーを楽しむことができます。施設面積は、東京ドーム10個分となる49haにも及び観客席付スタジアムを含め天然芝ピッチ8面、人工芝ピッチ2面、全天候型練習場、雨天練習場、ホテル（総客室数200）、フィットネスジム、アリーナ、プール、約730台収容駐車場を備えた一大トレーニングセンターです。



スタジアム

5,000人収容可能なスタジアムは各種大会に使用できます。



1997年に日本初のサッカーナショナルトレーニングセンターとして開設以来、東日本大震災発生までの間、年間50万人、累計およそ680万人が来場し、W杯サッカー日本代表のトレーニングキャンプをはじめ、各種カテゴリーの大会・合宿等で多くのチームに利用されてきました。

天然芝グラウンド

世界最高レベルの天然芝フィールド。



2011年3月に発生した東日本大震災と、それに伴う福島第一原子力発電所の事故収束の対応拠点として政府及び東京電力株式会社に使用されることとなり、施設の営業は休止しましたが、2018年7月に、新しい機能と魅力を兼ね備えて再始動しました。

新たに整備したホテル「アネックス」は、広々とした部屋にダブルサイズのベッドを設置し、ビジネスパーソンにより快適な宿泊を提供いたします。屋根付きドーム“全天候型練習場”も新たに整備し天候に左右されず、スポーツイベントなどさまざまな用途に応じてご利用いただけます。

また、東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーの出発地となりました。

会議室・ホール施設

イマジネーションが溢れだす新しい空間、企業研修やチームミーティング、国際規模のシンポジウムまで幅広い用途で使用可能



施設概要

所在地 / 福島県双葉郡檜葉町大字山田岡美シ森8

電話番号 / 0240-26-0111(代表)
0240-23-7311(総合案内・宿泊予約)

URL / <https://www.j-village.jp>

休館日 / 年中無休(施設点検日は休館します)



東日本大震災・原子力災害伝承館



世界に類を見ない未曾有の複合災害を経験した福島の記録と記憶を、防災の教訓として国内外に発信する施設です。



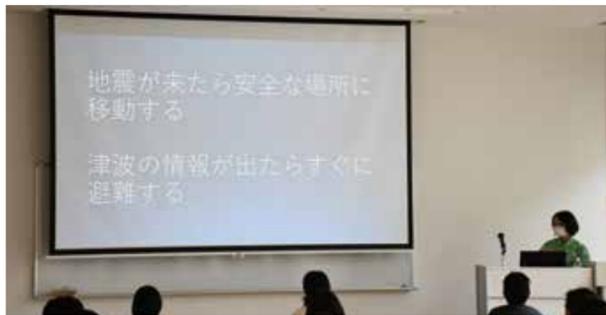
展示見学 複合災害を知る

プロローグシアター及び5つの展示エリアを通し、福島における複合災害の事実や復興に向けた取組を発信しています。複合災害の実態が分かる映像や実物資料などを見学、スタッフの説明を聞くことができます。



語り部講話 被災者らの生の声を聴く

震災、原子力災害を経験した方々の生の声を聞き、複合災害を「自分ごと」として体感できます。館内で1日4回(午前10時、11時30分、午後1時30分、3時)、各回約40分間講話しています。



研修プログラム 複合災害を考える、教訓を得る

来館団体向けにさまざまな研修を提供しています。当館を発着点に、津波や原子力災害で被災した周辺地域をバスで巡る「フィールドワーク」、語り部個人の体験に加え、教訓や復興に向けた取り組みと現状などをお伝えする「研修講話」などがあります。(要事前予約)

施設概要

所在地 / 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田39
電話番号 / 0240-23-4402
URL / <https://www.fipo.or.jp/lore/>

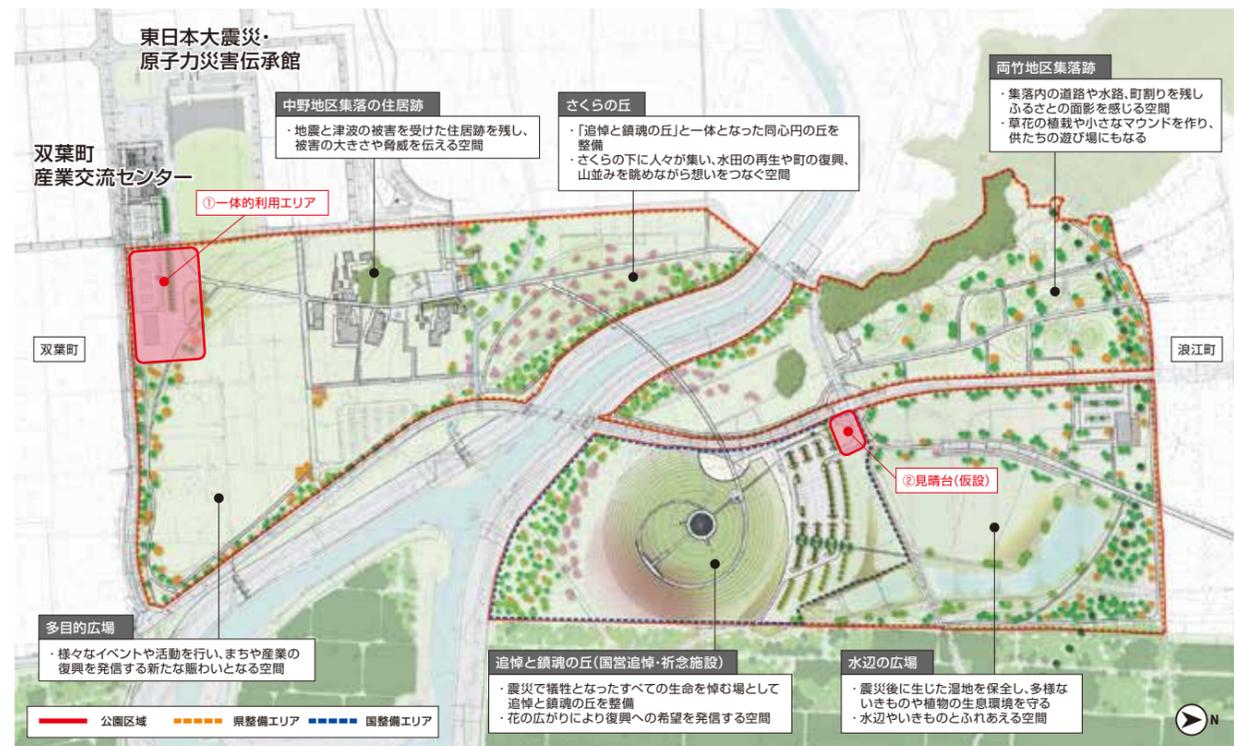


開館時間 / 9:00~17:00(16:30最終入館)
休館日 / 火曜日(祝日の場合は翌平日)、12/29~1/3
入館料 / 大人: 600円、小中高: 300円
団体(20人以上) : 大人480円、小中高240円
研修室: 最大90人収容(有料、要事前相談)

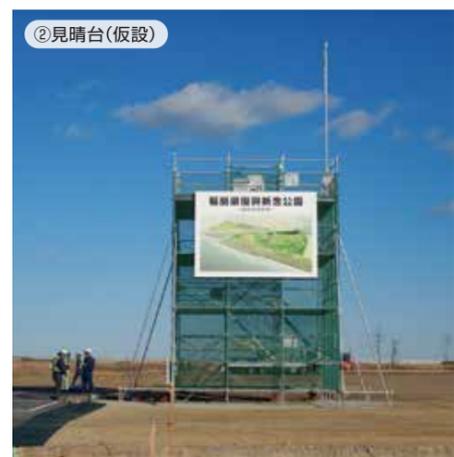
福島県復興祈念公園



広域かつ未曾有の災害であった東日本大震災の犠牲者の追悼・鎮魂、震災の記憶と教訓の後世への伝承、国内外に向けた復興に対する強い意志の発信といった公園の目的をふまえ、国と福島県が連携して「復興祈念公園」を整備しており、令和7年度(2025年)末の完成を目指しています。



公園の一部区域がご利用いただけます。(利用位置は上記の計画平面図に記載)



関連HP(多言語対応 QR Translator)

多言語解説による復興祈念公園の概要をご覧ください。
URL / <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/41055b/memorial-park-information-translator.html>



日本語
English
中文(簡体字)
中文(繁体字)
한국어

震災遺構浪江町立請戸小学校



地域のシンボルである請戸小学校を震災遺構として整備・保存し、防災について考えるきっかけとして、また、後世へ伝承していくための施設として公開しています。

2021年10月開館



1階廊下



津波により天井や壁が流出したそのままを見学できるように整備してあります。

2階6年教室



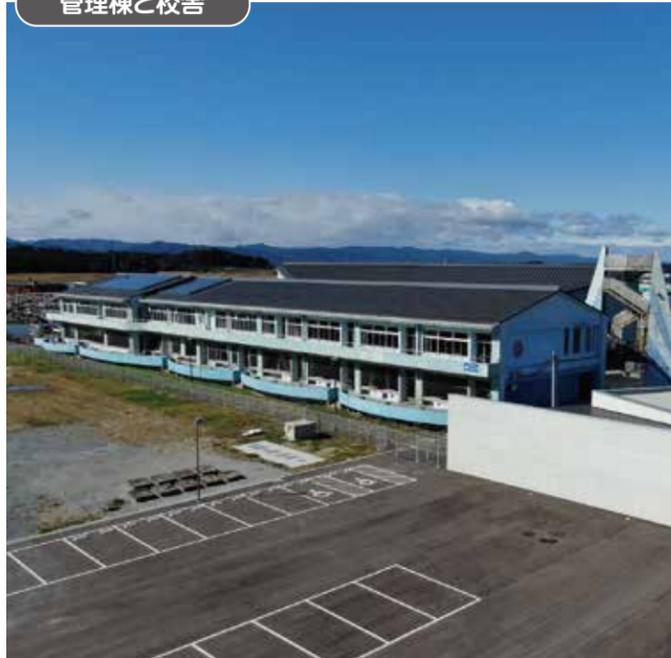
自衛隊からの激励の言葉のほか、当時の卒業生などの書き込みがされた黒板を展示しています。

体育館



震災当日に卒業式の準備を行っていた看板がそのまま残っています。

管理棟と校舎



管理棟では請戸地区の紹介をしております。校舎の中を見学することが出来ます。

所在地 / 福島県双葉郡浪江町大字請戸字持平 56 番地
 電話番号 / 0240-23-7041
 U R L / <https://www.town.namie.fukushima.jp/soshiki/12/29757>
 開館時間 / 9:30 ~ 16:30 最終入館は 16:00
 休業日 / 火曜日 (祝日の場合は開館し、翌日休館)
 年末年始 (12月28日 ~ 1月4日)
 入場料 / 【個人】一般 300円、高校生 200円、小中学生 100円
 駐車場 / 【団体】一般 250円、高校生 150円、小中学生 50円
 ※団体は 20名以上の場合。
 団体の方は事前予約が必要となります。
 詳細はホームページをご覧ください。



双葉町産業交流センター【F-BICC】



双葉町産業交流センターは、町内で最も早く避難指示が解除された中野地区に令和2年10月にオープンしました。双葉町の復興をけん引する中野地区の中核施設で、貸会議室や貸事務所のほか、フードコートやレストラン、土産物店等の商業施設が入る複合施設です。

町民の方々をはじめ、東日本大震災・原子力災害伝承館や福島県復興祈念公園等の周辺地域へ来訪される方、町内に立地する企業関係者の方の幅広い方々が交流する拠点となり、新たな価値を生み出していく場所を目指しています。



施設内容 / 商業施設 (フードコート、レストラン、物販等)、
 屋上展望、貸会議室 (大・中・小各1室)
 休憩室、多機能トイレ
 所在地 / 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田1番地1
 電話番号 / 0240-23-7212
 U R L / <https://www.f-bicc.jp/>
 開館時間 / 9:00 ~ 18:00
 休業日 / 年末年始 (12月29日 ~ 1月3日)



とみおか・アーカイブミュージアム



とみおか・アーカイブミュージアムは、富岡町の成り立ちと積み重ねられた日常を知り、複合災害で奪われたものが何なのかを感じる施設です。

2021年7月開館



所在地 / 福島県富岡町大字本岡字王塚 760-1
 電話番号 / 0240-25-8644
 U R L / <https://www.facebook.com/TheHistoricalArchiveMuseumOfTomioka>
 開館時間 / 9:00 ~ 17:00 (最終入館は 16:30)
 休業日 / 月曜 (祝日の場合は火曜)、年末年始
 入場料 / 無料
 駐車場 / 館前 16台、隣接施設併用 100台、大型バス 2台



東京電力 廃炉資料館



富岡町

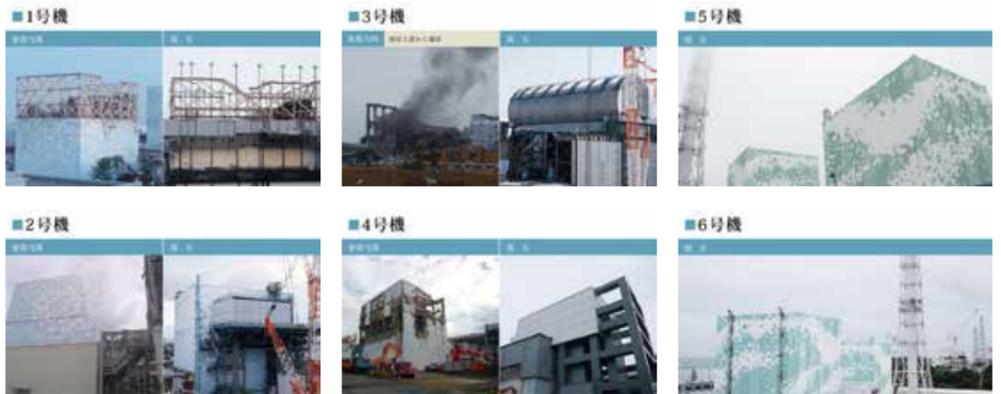
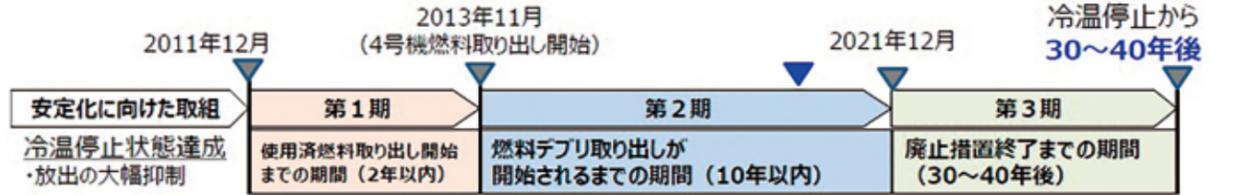
エフ・キューブ(F・CUBE)
「廃炉作業の現場」とは。
福島第一原子力発電所構内の
状況を紹介します。

[東京電力廃炉資料館 正面外観]

～福島第一原子力発電所の今と廃炉に向けて～

廃炉に向けたロードマップ

中長期ロードマップの目標行程(マイルストーン)



最新の情報



ライブカメラ



ゾーン1 プロローグ

東京電力からのご挨拶文で、来館される皆さまをお迎えます。



ゾーン2 記憶と記録・反省と教訓

原子力事故を振り返り、その反省と教訓をお伝えます。



東京電力は、発電所周辺地域をはじめとして福島県の皆さま、そして国内外の多くの皆さまが、原子力事故の事実と廃炉事業の現状等をご確認いただける場として、「東京電力廃炉資料館」を開館しました。

東京電力が果たすべき責任の一つとして、原子力事故の記憶と記録を残し、二度とこのような事故を起こさないための反省と教訓を伝承することを目的としています。

また、長期にわたる膨大な廃炉事業の全容を見える化し、その進捗をわかりやすく発信することは、国内外の英知の結集と努力を継続させていく上でも大切です。

情報スペース

福島復興への取り組み、原子力や放射線等の情報をご覧いただけます。



関係施設及び周辺地域等との連携を図りながら、原子力事故を後世にお伝えし、復興に向けた皆さまの安心にもつなげていけるよう努めています。

ゾーン3 廃炉現場の姿

廃炉事業の全容と最新の現場の状況をお伝えます。



施設概要

所在地 / 福島県双葉郡富岡町大字小浜字中央378番地(旧エネルギー館)

電話番号 / 0120-502-957

開館時間 / 9:30～16:30

休館日 / 毎月第3日曜日・年末年始

入場料 / 無料(駐車場無料)



2021年10月の作業員の被ばく線量と分布



「廃炉への軌跡」



<http://www.tepco.co.jp/decommission/track/>



バーチャルツアーインサイド



<http://www.tepco.co.jp/inside/fukushimadaichi/>



「福島第一原子力発電所は今」～あの日から、明日へ～



https://www.tepco.co.jp/library/movie/detail-j.html?catid=61709&video_uid=2tk519y



中間貯蔵工事情報センター



【管理・運営】環境省・JESCO
 【概要】中間貯蔵に関する工事の概要・進捗状況、再生利用に向けた取り組み等、福島県の環境再生に向けた最新情報を県内外に広く発信しています。
 【見所】各施設の作業や日々進む工事の最新の状況について、動画やパネルで分かりやすく説明しています。また、区域内の見学会を月に4回実施（要予約）。施設の規模感を実感することができます。



開館情報
 【開館時間】10:00～16:00
 【休館日】日曜・月曜、年末年始（月曜日が祝日の場合は翌平日休館）
 【入館料】無料
 【所要時間】館内：約30分
 区域内（要予約）：約90分



【ホームページ】
https://www.jesconet.co.jp/interim_infocenter/

映像で見る中間貯蔵施設

ドローン映像を用いて、各施設の建設状況や、大熊・双葉両町の風景や史跡等を紹介。

映像上映コーナー

中間貯蔵工事の全体像（輸送、受入・分別、貯蔵等）を映像で紹介。視聴対応人数：20名

施設見学

受入・分別施設、土壌貯蔵施設等を現場で見学。

福島県双葉郡大熊町大字小入野字向畑 256
 TEL：0240-25-8377
 FAX：0240-25-8378
 メール：johocenter@jesconet.co.jp

環境省 特定廃棄物埋立情報館



リプルんふくしまは、放射性物質に汚染された廃棄物の埋立処分についてわかりやすく学べる体験型の情報館です。特定廃棄物の埋立処分事業の概要や必要性、安全対策、進捗状況などについて「動かし」「さわり」「遊び」ながら、「知る」ことができます。他にも参加型イベントなど、地元をはじめ、県内、県外の皆さまに広く来館いただくための様々な企画を実施しております。

体験型の展示で放射性物質に汚染された廃棄物の埋立処分などについて学ぶことができます。

特定廃棄物埋立処分施設やセメント固化処理施設の見学会も実施しています。（要申込）

放射線の測定体験や工作教室等も開催！

所在地 / 福島県双葉郡富岡町大字上郡山字太田 526-7
 電話番号 / 0240-23-7781
 開館時間 / 9:00～17:00
 休館日 / 月曜日・年末年始（月曜日が祝日の場合は翌平日休館）
 入場料 / 無料
 会議室もご利用いただけます。（詳しくはWebまたはお電話にて）

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 楢葉遠隔技術開発センター (NARREC)

NARaha Center for Remote Control Technology Development

楢葉遠隔技術開発センター（NARREC）は、ロボット等の遠隔操作機器の開発や、実証試験等を行うことができる施設です。東京電力ホールディングス福島第一原子力発電所の廃炉作業に向けたロボット等の開発実証試験、一般のロボット等の開発実証試験、関連技術の人材育成の他、講演会・会議等にもご利用いただけます。

バーチャルリアリティシステム

モックアップ階段

モーションキャプチャ

ロボット試験用水槽

所在地 / 福島県双葉郡楢葉町大字山岡字仲丸 1-22
 電話 / 0240-26-1040（代表）
 URL / <https://naraha.jaea.go.jp>
 E-mail / naraha_mockup@jaea.go.jp
 施設利用 / 要相談
 見学 / 事前の申込みが必要です。
 詳細はホームページをご参照下さい。

写真提供：日本原子力研究開発機構

FHER 福島水素エネルギー研究フィールド (浪江町)



福島水素エネルギー研究フィールド（FH2R）は、国立研究法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が、太陽光により発電した電力を用いて世界最大級の10MWの水素製造装置を備えた水素エネルギーシステムを構築し、2020年度から実証運用を行っております。ここで製造される水素は、道の駅なみやや県内外の水素ステーションをはじめ、東京オリンピック・パラリンピックにおいても活用されるなど、水素社会実現に向けて様々な活用や実証が行われております。

○ 棚塩産業団地概要
 福島イノベーション・コースト構想に基づく企業を誘致するエリアとして、2018年度から整備を進めました。
 建設場所 / 浪江町大字棚塩 敷地面積 / 47.9ha
 事業者 / 浪江町役場 受託者 / UR都市機構

○ 福島水素エネルギー研究フィールド
 委託者 / NEDO
 受託者 / 東芝エネルギーシステムズ(株)、東北電力会社(株)、東北電力ネットワーク(株)、岩谷産業(株)、旭化成(株)
 敷地面積 / 22ha 太陽光パネル / 6.8万枚、20 MW

MIC 南相馬市産業創造センター



南相馬市産業創造センターは、創業・起業支援、入居者と地元事業者等との交流等を含むソフト支援を通じて、市内の産業発展に必要な環境の整備を推進し、市内で新規事業に取り組む企業等が創業等しやすい環境支援と市内での対外的な情報発信等を行うことを目的としています。

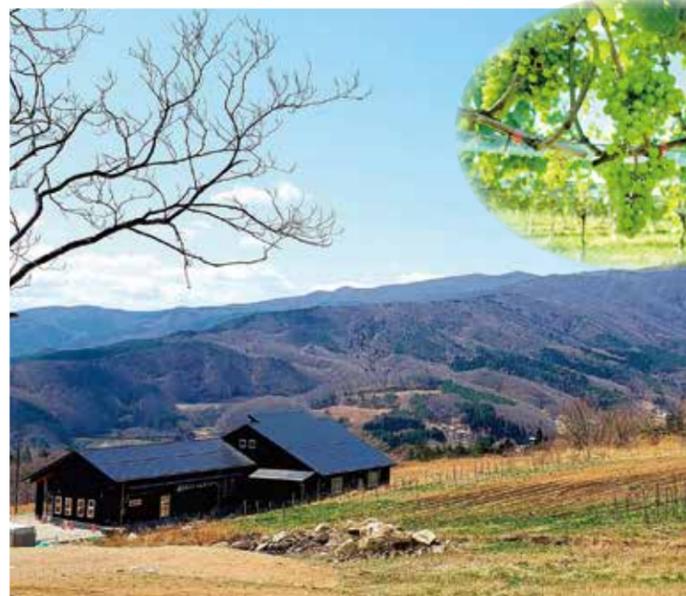
施設内容 / 貸事務所 (計 16 室)、貸工場 (計 4 区画)
ミーティングルーム、会議室、コワーキングスペース
所在地 / 福島県南相馬市原町区萱浜渠掛場 45-245
電話番号 / 0244-26-9995
F A X / 0244-26-9996
U R L / <https://mic-info.org/>



かわうちワイナリー



2021年6月開所



注：熟成過程での品質チェック中の画像です。



川内村の震災復興・新たな農業への挑戦、地方創生の取り組みとして、高田島ヴィンヤードから収穫する醸造用ぶどうを基にしっかりとワインを生産することを旨とするとともに、村の交流人口や定住人口の拡大にもつなげてまいります。 ※ワインは村内酒取扱店でも購入可能です。

かわうちワイン株式会社
所在地 / 福島県双葉郡川内村大字上川内字大平 2 番地の 1
U R L / <https://www.kawauchi-wine.com/>



福島県立ふたば未来学園 中学校・高等学校



私たち人間は、理想とする未来の姿を思い描きながら、いま、ここにある現実を、少しずつ、少しずつ変えることができる存在です。それは未来を創造することにほかなりません。ふたば未来学園高等学校は、まさに、未来への挑戦です。この学校は、双葉郡の方々の「双葉の教育の灯を絶やすことなく灯し続けたい」という強い願いと、復興を実現し、先進的な新しい教育を創造しようとする国など関係機関の熱い思い、そして、なにより、震災後、子供たちの中に芽生えた、復興を成し遂げようとする強固な意志、夢を実現しようとする意欲、新しい価値観、創造性、高い志を礎として誕生しました。

この学校の生徒スタッフが運営する「café ふう」は、地域の交流の場にして町内の方はもちろん、誰でも利用できます。

※営業時間については、学校ホームページよりご確認ください。



施設概要

開 校 / 平成27年4月
所 在 地 / 双葉郡広野町中央一丁目 地内
U R L / <https://futabamiraigakuen-h.fcs.ed.jp/>



ネクサスファームおおくま



ネクサスファームおおくまは、東日本大震災により地域農業に大きな被害を受けた福島県大熊町が農業復興を目指して2018年に設立しました。栽培面積 2.2ha の太陽光利用型植物工場、ICT を活用した環境制御や機械化等による労働負担を軽減しながら、年間を通じていちごを生産しています。いちごは収穫した全量を非破壊式放射線測定装置によって検査しており、安全を確認してから出荷しております。



株式会社ネクサスファームおおくま
所在地 / 福島県双葉郡大熊町大字大川原西平 2127 番地
電話番号 / 0240-23-7671
U R L / <https://nexus-fco.jp/>



1日目

上野(特急) いわき駅 10:30

Jヴィレッジ (檜葉町・広野町) 11:30 - 12:30

東京電力廃炉資料館 (富岡町) 13:00 - 14:00

昼食 買物

南相馬市内ホテル (南相馬市) 17:00

浪江町立請戸小学校 (浪江町) 15:45 - 16:30

東日本大震災・原子力災害伝承館 双葉町産業交流センター (双葉町) 14:30 - 15:30

買物

2日目

南相馬市内ホテル (南相馬市) 8:45

南相馬市産業創造センター (南相馬市) 9:00 - 9:45

福島ロボットテストフィールド (南相馬市) 10:00 - 11:00

浜の駅松川浦 (相馬市) 11:30 - 12:30

仙台駅 (仙台市) 13:30

昼食 買物

信用金庫業界から紹介された団体様限定の特別プランもご用意しております。

南相馬市の交通・宿泊・観光のポータルサイト
URL : <http://soso-access.jp/>

福島の今を学ぶ
1泊2日コース

1日目

仙台空港 (名取市) 13:00

南相馬市産業創造センター (南相馬市) 14:30 - 15:15

福島ロボットテストフィールド (南相馬市) 15:30 - 16:30

南相馬市内ホテル (南相馬市) 17:00

2日目

南相馬市内ホテル (南相馬市) 9:00

浪江町立請戸小学校 (浪江町) 9:30 - 10:15

東日本大震災・原子力災害伝承館 双葉町産業交流センター (双葉町) 10:30 - 12:45

中間貯蔵工事情報センター (大熊町) 13:00 - 13:30

Jヴィレッジ (檜葉町・広野町) 16:45

リプルンふくしま (富岡町) 15:45 - 16:15

とみおかアーカイブ・ミュージアム (富岡町) 15:00 - 15:30

ネクサスファーム大熊 (大熊町) 14:00 - 14:45

昼食

3日目

JAEA 檜葉遠隔技術開発センター (NARREC) (檜葉町) 9:00 - 10:00

Jヴィレッジ (檜葉町・広野町) 8:45

東京電力廃炉資料館 (富岡町) 10:30 - 11:30

富岡ホテル (富岡町) 11:45 - 12:30

仙台空港 (名取市) 14:00

昼食

福島の今を学ぶ
2泊3日コース



A
プラン

いわき市内発着プラン



福島の今を学ぶ
日帰りコース



B
プラン

仙台市内発着プラン



C
プラン

福島市内発着プラン



D
プラン

郡山市内発着プラン



立ち寄りスポット

セデッテかしま

常磐自動車道南相馬市サービスエリア活用拠点施設

相馬地方の方言で「連れて行って」という意味の「セデッテ」は、常磐道の南相馬鹿島サービスエリアに隣接する観光交流施設です。施設内では様々な交流情報の発信のほか、特産物の販売なども行っています。



施設概要

所在地 / 福島県南相馬市鹿島区浮田字榎木沢 212-1

営業時間 / 8:00～20:00
/ お食事処 10:30～19:00 ラストオーダー
※時期によりお食事処の営業時間に変更がございます

電話番号 / 0244-26-4822

URL / <http://sedette.jp>



いいたて村の道の駅 まいでい館



施設概要

施設内容 / まいでいホール・花き展示販売ホール
生活必需品販売コーナー(コンビニ)・厨房
多目的スペース・事務室・公衆トイレ・待合スペース

所在地 / 福島県相馬郡飯舘村深谷字深谷前12-1

営業時間 / 9:30～17:00(11月～2月)
9:30～18:00(3月～10月)

電話番号 / 0244-42-1080

定休日 / 毎週水曜日

URL /

<https://www.vill.iitate.fukushima.jp/site/kanko/1404.html>



生活必需品販売施設やコンビニエンスストアなどを備えるとともに、住民の帰村時の日常生活を支える地域福祉の拠点として、また、村の基幹産業である農業の復興のため、「花」をキーワードに花卉栽培施設、花卉展示販売ホールを備え産業復興を図る拠点として整備されています。



道の駅なみえ

請戸漁港で水揚げされたシラスたっぷりの丼や海鮮丼が味わえるほか、なみえ焼そばのお土産品ほかここでしか買えないオリジナル商品も多数。浪江の酒蔵・鈴木酒造店のお酒販売や酒蔵見学、大堀相馬焼陶芸体験も人気。



施設概要

施設内容 / フードテラス、ベーカリー、地場産品販売施設
無印良品、酒造り見学、大堀相馬焼体験・販売
地域観光情報発信室、郷土料理研究室
交流サロン・談話コーナー・会議室
キッズスペース、トイレ、駐車場128台
(大型車22台、小型車103台、身障者・妊婦用:3台)

所在地 / 福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字知命寺 60

営業時間 / 10:00～18:00(店舗により異なる)

定休日 / 毎月最終水曜日
(なみえの技・なりわい館内の
大堀相馬焼のみ毎週水曜日)

電話番号 / 0240-23-7121

URL / <https://michinoeki-namie.jp/>



浜の駅松川浦

『浜の駅松川浦』は、令和2年10月に福島県相馬市の松川浦漁港近くにオープンしたお魚や水産加工品などを取り扱っている販売施設です。松川浦漁港が位置する福島県の海域は親潮と黒潮のぶつかる潮目の海で、プランクトンが豊富に発生し、様々な魚が集まる天然の好漁場です。寒流と暖流がぶつかる潮目でとれたヒラメ、柳カレイなどの魚は、身が引き締まり美味しく、「常磐もの」と称され古くから高値で取引されてきました。

当店で、すぐ目の前の松川浦漁港で水揚げされた新鮮で美味しい魚介類を安く提供しています。そのほかにも、水産加工品や地元の農産物、地域のお土産品など数多く取り扱っておりますので、ぜひお立ち寄りください。

また、食堂「浜の台所くあせと」では、相馬の新鮮で美味しい魚を使った料理が楽しめますので、ご来店いただき、相馬の「美味しい」を味わってください。

施設概要

所在地 / 福島県相馬市尾浜字追川1196

営業時間 / 夏季) 09:00～18:00(4月～9月)
冬季) 09:00～17:00(10月～3月)

定休日 / 1月1日、1月2日

電話番号 / 0244-32-1585

URL / <https://www.hamanoeki.com/>



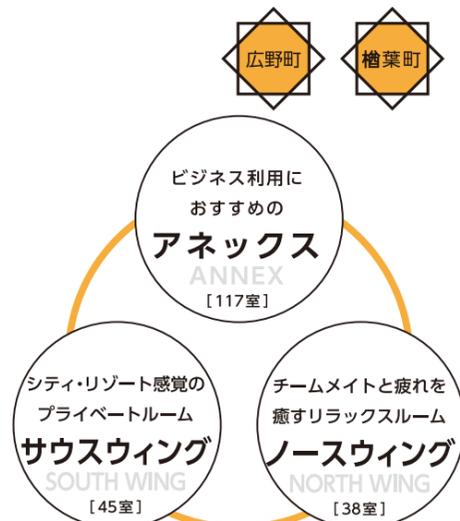
浜の台所くあせと

営業時間 / 平日) 11:00～14:30
土日祝) 10:30～14:30



J-VILLAGE

AlpineRose レストランアルパインローズ



施設概要

所在地 / 福島県双葉郡檜葉町山田岡美シ森8
 電話番号 / 0240-23-7311 (総合案内・宿泊予約)
 宿泊 / サウスウイング棟(45室) ノースウイング棟(38室)
 サウスウイング(ツインルーム43室、スイートルーム2室)
 ノースウイング(4ベッドルーム38室)
 アネックス棟(117室)
 アネックス(シングルルーム90室、ツインルーム18室、
 パリアフリールーム6室、Jr.スイートルーム3室)
 セミナー・宴会 / センター棟
 コンベンションホール(162名) ※セミナーのみ
 パシフィックホール(着席64名)
 中宴会場(56名)、
 小宴会場(24名)、
 和室宴会場(10畳間×3)
 アネックス棟
 Jヴィレッジホール(スクール180名、着席160名)



富岡ホテル



施設概要

所在地 / 福島県双葉郡富岡町大字仏浜字釜田122-6
 電話番号 / 0240-22-1180
 部屋数 / 69室(シングル66室、
 ツイン3室) 全室禁煙
 館内施設 / レストラン
 (団体様向けのご昼食、承ります)、
 バーラウンジ、小会議室



富岡ホテルは、震災を経験した富岡町が一步步変わっていく街の姿を全国のお客様に見に来ていただきたい、町の希望を次世代につなげていきたいという想いを込めて立ち上げた、町民の手によるホテルです。元気で気さくな笑顔とおもてなしの心で皆様をお待ちしております。

故郷の復興の歩みと未来への想い

震災から10年が経過した今も被災地は復興に向けた歩みを続けています。この歩みを後世に遺すため、震災から10年の節目を前に各市町村の首長にまちの魅力、復興のあゆみ、そして未来への想いをテーマに語っていただきました。故郷への想いが込められた首長の“リアルな言葉”を以下のQRコードからご覧ください。

南相馬市	飯舘村	浪江町	双葉町
 門馬 和夫様	 菅野 典雄様	 吉田 数博様	 伊澤 史朗様
 渡辺 利綱様	 宮本 皓一様	 松本 幸英様	 遠藤 智様

※動画は令和元年度に当時の各首長のご協力により撮影しました。

福島を知ろう ～ふくしま 知らなかった大使～

ふくしま 知らなかった大使とは、ふくしまを知らなかったみなさまの代表です。知らなかったからこそ体験できる、知る瞬間の驚きや新鮮な気持ちを、みなさまにお届けする活動をしていきます。一緒に驚いて、一緒に納得して、一緒に知っていく。ふくしまの今とこれからの、ふくしま知らなかった大使と共に、ご注目ください。



<https://fukushima-shiranakatta-taishi.jp/>



福島を応援しよう



登録証としてお送りする広報隊グッズの着用やPRツールの掲出など、福島県の新スローガンの広報に協力いただける方や福島県を応援くださる方々を「広報隊」として募集しています。ぜひご登録ください。

登録したと
 広報隊グッズを
 プレゼント

PRツールを
 無償配布中

登録申込書のダウンロード・WEBからのお申込みはこちら <https://jitsugensuru-fukushima.jp>

ひとつ、ひとつ、実現するふくしま

